

堆肥の生産・販売に関するQ&A

Q:	<p>ハウス内に深さ50cm程度の発酵槽を設け、浅型ロータリー攪拌機で堆肥化を行っていますが、攪拌しても発酵温度が40℃前後しか上昇せず、堆肥の水分減少率も少なく、特に冬季に水分減少率が低くなります。</p> <p>浅型発酵槽では十分な堆肥化発酵は望めないのでしょうか。</p>
A:	<p>昔から堆積高さ数十cmの家畜ふんを浅型ロータリー攪拌機で攪拌移送する家畜ふんの乾燥ハウスが使われていたため、堆積高の浅い施設は乾燥施設で、深い施設が堆肥化施設であると多くの方が思っています。</p> <p>堆肥化発酵の条件は水分・比重の調整を行って通気性を確保し、堆積物内部に酸素を染み込ませることですから、浅い発酵槽は発酵せず、深くなければ発酵しないと考えるのは間違いです。</p> <p>乾燥ハウスは水分・比重調整をしない家畜ふんを投入していたから発酵しなかったのであり、深い発酵槽には水分・比重調整をした家畜ふんを投入するから発酵するのですから、発酵には槽の深さは全く関係がないこととなります。</p> <p>それどころか、空気が染み込む表面部分が発酵するので浅い方が堆肥化発酵には適していると言うこともできます。</p> <p>したがって、ご質問の発酵温度の上昇が悪いのは投入ふんの水分・比重調整不足が原因ですし、このことから発生発酵熱量も少ないために堆肥の水分減少率も少なくなっています。なお、冬季は天日による水の蒸発量が夏季の1/4になるため堆肥の水分減少率の低下を避けることはできません。</p> <p>浅型発酵槽でも水分・比重調整を確実に行えば活発な堆肥化発酵ができるのですから、容積重が700kg/m³以下になるまで副資材を混合して投入してみてください。浅型のため空気の染み込む表面積が多いので、初日から活発な発酵が始まり翌日の攪拌前の内部温度は浅型でも50℃を越えてきます。ぜひ試してみてください。</p>